

令和4年度 全国学力調査分析 小松川第二中学校〈国語〉

1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	全国平均 (%)	本校平均 (%)
言葉の特徴や使い 方に関する事項	1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	54.1	51.8	53.9
	2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	84.3	82.3	81.7
	2二①	漢字を書く(のぞく)	82.8	82.1	90
	2二②	漢字を書く(よるこんで)	79.1	80.5	85
	3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	55.1	52.5	56.7
	3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	86	84	83.3
言葉の特徴や使い方に関する事項			73.6	72.2	75.1
情報の扱い方に関する事項	2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	43.8	46.5	47.2
	情報の扱い方に関する事項			43	46.5
我が国の言語文化に関する事項	4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	39.6	39.4	43.9
	4二	最初にした文字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	90.8	90.1	92.8
	4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	82.3	81.1	83.9
	我が国の言語文化に関する事項			70.9	70.2
話すこと・聞くこと	1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	74	74.7	69.4
	1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	69.1	65.1	67.2
	1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	54.1	51.8	53.9
	話すこと・聞くこと			65.7	63.9
書くこと	2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	43.8	46.5	47.2
	書くこと			43.8	46.5
読むこと	3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	64.9	62	68.3
	3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	76.6	73.8	77.2
	読むこと			70.8	67.9

2. 結果に対する課題と改善策 (カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策)

○言葉の特徴や使い方に関する事項

助動詞の働きを意識して目的に応じて用いる設問と「途方に暮れた」の意味を選択する設問に関しては、都平均・全国平均を下回ってしまった。慣用表現や文法事項の習熟には新聞教材などを用いて力を入れているので、今後も一層の習熟を目指す。それ以外の漢字の書き取りや表現技法に関する設問には、いずれの平均をも上回る成果を残した。カテゴリーとしての平均も良好である。さらなる向上を目指す。

○情報の扱い方に関する事項

設問は1問のみだが、都・全国いずれの平均をも上回る成果を上げた。新聞教材の積極的な活用が奏功していると思われる。今後もこうした指導を積み上げていく。

○我が国の言語文化に関する事項

設問全て及びカテゴリー全体で、都平均・全国平均を上回った。1年次を中心に書写の授業に力を入れてきた成果と見られる。学習者にも行書で書こうとする態度や意欲を持たせることができている。今後も一層の習熟を目指す。

○話すこと・聞くこと

カテゴリー全体で、都平均・全国平均を共に下回ってしまった。他のカテゴリーでの習熟よりも、指導に費やす時間が少なかった嫌いがある。授業の組み立てを意識的に改め、話し合いやそれに基づく発表の場を従前よりも増やしていく必要がある。

○書くこと

上記「情報の扱い方に関する事項」と同じ設問が1問のみであった。

○読むこと

設問全てとカテゴリー全体で、都平均・全国平均を上回った。学校全体で朝読書など、読書指導に力を入れてきており、文章を読むことそのものへの抵抗感がかなり低くなっていると見られる。今後は、さらに様々なジャンルの文章を意識して読むように指導をしていく。

【まとめ】

①既習事項定着のための工夫

文法事項や語彙力等、一度学習し獲得した能力の定着を図る。教科書のみならず、自作プリント、確認テスト等での演習を行う。また、その内容を定期テストにも出題することにより、復習する機会を与える。

②言語能力の復習、確認の徹底

国語力の基礎となる部分。既習の漢字であってもそれを使いこなせるまでには用例の反復練習が必要となる。定期的に問題演習を実施し、また、読書指導の中で語句の理解を深めさせ、言語能力の定着・向上を図る。

③個別指導の充実

書くことについての能力は、個人差が多いと感じられる。そこで論述・記述の構成を身に付けさせるためには、個々人が取り組んだものを使った添削指導が必要となる。生徒個人に合わせた具体的な個別指導をより充実させていくことで、話したり書いたりの際に効果的に伝える能力の向上を図る。